



鳥取県立とっとり賀露かにかっこ館の 委託業務に関する事業計画書

2023年8月25日



一般財団法人鳥取県観光事業団

本提案書類は、指定管理者選定要項に基づき令和5年8月時点で計画された
ものであります。今後、鳥取県の施策や社会情勢の変化を踏まえ、県と綿密に
協議し、提案内容を適宜見直しながら、年度の事業計画を立案いたします。

目次

| | |
|---------------------------------|-----------|
| 1 管理運営の基本的な考え方 | 1 |
| (1) 鳥取県立とっとり賀露かっこ館の指定管理者を希望する理由 | 1 |
| ア これまでの取り組み実績 | 1 |
| イ お客様の声 | 5 |
| ウ 次期指定管理に向けて | 5 |
| (2) 管理運営の方針 | 7 |
| ア 利用者へのサービス | 7 |
| イ 水生生物の飼育・展示・水産に関する体験活動の場の提供 | 8 |
| ウ 近隣集客施設や県との連携確保 | 8 |
| エ その他の連携 | 9 |
| オ 利用者の増加 | 9 |
| カ 収入確保と経費の節減 | 10 |
| キ 住民の公平な利用の確保 | 11 |
| ク 省エネルギー・省資源への取り組み | 11 |
| ケ 関係法令等の遵守 | 11 |
| コ SDGsの実現を推進 | 11 |
| (3) 達成目標 | 12 |
| (4) 他の施設管理の実績 | 12 |
| 2 サービスの提供内容 | 13 |
| (1) 水生生物の飼育管理業務 | 13 |
| ア 水生生物の収集 | 13 |
| イ 水生生物の飼育 | 15 |
| ウ 水生生物の展示 | 16 |
| (2) 観光及び水産振興に係る業務 | 19 |
| ア 水生生物の展示、生態等の紹介・イベント実施 | 19 |
| イ 出前かっこ館 | 22 |
| ウ 鳥取県の観光及び水産の振興を図るための提案・行事 | 24 |
| エ 自主事業 | 28 |
| オ サービス向上策と利用促進に向けた取り組み | 31 |
| 3 施設管理 | 41 |
| (1) 施設設備の維持管理業務 | 41 |
| ア 業務実施に向けた考え方 | 41 |

| | |
|-------------------------------|-----------|
| イ 業務の実施内容 | 41 |
| ウ 外部委託等の考え方 | 49 |
| 4 開館時間・休館日 | 50 |
| (1) 開館時間の考え方と設定内容 | 50 |
| ア 開館時間の考え方 | 50 |
| イ 開館時間の設定内容 | 50 |
| (2) 休館日の考え方と設定内容 | 50 |
| ア 休館日の考え方 | 50 |
| イ 休館日の設定内容 | 50 |
| 5 事故・事件の防止措置と緊急時の対応等 | 51 |
| (1) 火災・盗難・災害などの事故、事件の防止(防災)対策 | 51 |
| ア 事故・事件、災害対策の基本的な考え方 | 51 |
| イ 事故・事件・災害の防止・防災対策 | 51 |
| ウ 自然災害等に対する防災対策 | 51 |
| エ 大規模災害等発生時における県立施設の役割の遂行 | 51 |
| (2) 緊急時の体制・対応 | 52 |
| ア 緊急時の対応 | 52 |
| イ 緊急時の体制 | 52 |
| (3) 利用者の苦情等トラブルの未然防止と対処方法 | 53 |
| ア トラブル・苦情等の未然防止 | 53 |
| イ 入館者トラブル・苦情等の発生後の対応 | 54 |
| (4) 個人情報保護等への対応 | 54 |
| ア 個人情報の保護への対応 | 54 |
| イ 情報公開への対応 | 54 |
| (5) 利用者等の要望把握及び対応方針 | 55 |
| ア 基本方針 | 55 |
| イ 利用者のニーズの把握と共有 | 55 |
| ウ 非利用者のニーズの把握と共有 | 56 |
| エ 運営への反映 | 57 |
| 6 管理経費 | 59 |
| (1) 管理経費の効率化の考え方 | 59 |
| (2) 県委託料の額 | 59 |

| | |
|--|----|
| 7 組織及び職員の配置等 | 60 |
| (1) 管理運営の組織 | 60 |
| ア 基本的な考え方 | 60 |
| イ 運営体制 | 60 |
| (2) 職員の職種等 | 61 |
| (3) 現在の指定管理者の雇用する施設職員の継続雇用に関する方針 | 61 |
| (4) 障がい者又は高齢者の雇用計画 | 61 |
| (5) 日常の職員配置 | 62 |
| (6) 人材育成 | 62 |
| ア 基本方針 | 62 |
| イ 人材育成計画 | 63 |
| 8 関係法令に係る監督行政機関からの指導等の状況及び対応状況 | 65 |
| (1) 指導等の状況について | 65 |
| 9 法人等の社会的責任の遂行状況 | 66 |
| (1) 障がい者雇用 | 66 |
| (2) 男女共同参画の推進、あいサポート企業等の認定 | 66 |
| ア 男女共同参画 | 66 |
| イ あいサポート企業等 | 66 |
| (3) ISO14001・鳥取県版環境管理システム審査登録制度(TEAS) I種又はII種規格認証等 | 67 |
| (4) 鳥取県家庭教育推進協力企業としての協定締結 | 67 |
| (5) SDGsの取り組み | 67 |

1 管理運営の基本的な考え方

(1) 鳥取県立とっとり賀露かっこ館の指定管理者を希望する理由

- 私たち一般財団法人鳥取県観光事業団(以下「当財団」という。)は、「鳥取県の豊かな自然・特産物・歴史文化等の恵まれた資源を活かし観光振興を図り、県経済の発展・地域の活性化と県民の福祉の向上に寄与する」ことを法人の目的としています。私たちは、設立以来一貫して多種多様な県立施設の管理運営を担い、鳥取県の観光振興を行うことで、地域振興と経済活性化を図り、県民生活の向上を目指してまいりました。
- 平成31年4月からはとっとり賀露かっこ館の指定管理者として、鳥取県から管理運営を引き継ぎました。管理を開始して以降、当財団は、鳥取県の施策を理解し設置目的を最大限に達成するため、利用者ニーズに応え、サービスの多様化と質の向上をモットーに業務の改善に力を注いでいます。近年はコロナ禍ではありましたが、昨年度は年間18万人の来館者をお迎えし、利用者スタッフとの距離が近い「小さな水族館」として多くの方に愛される施設となっております。
- 私たちは、これまでの運営を通じ、施設の魅力についても課題についても熟知しております。施設名に「賀露」という地名が入っていることをよく理解し、令和4年度には鳥取・賀露みなどオアシスの事務局として、鳥取の水産業の拠点である賀露の活性化に寄与し、地域における役割を果たすとともに、かっこ館の運営にも温かいご協力をいただくなど、地域での信頼関係を着実に築いてまいりました。
- 次期指定管理においては、これまで培ってきたつながりをより強固なものにし、水産の魅力を発信してまいります。また、県内外から多くの人々が集まり地域の賑わいを創出する観光拠点とし、設置目的を果たしていきたいと考えております。
- 以上のことから、引き続きかっこ館の指定管理者となることを希望いたします。

ア これまでの取り組み実績

(ア) 過去最高の入館者数達成

- 指定管理初年度には、年間入館者が過去最高の35万人を達成しました。
- 新たに開設したミュージアムショップ、飲料の自動販売機設置、有料イベントの実施により得られた事業収入を元に、芝生の張り替え、貸出遊具の拡充、ベビーコーナーの更新、館内の案内表示の刷新など、利用者サービスに還元したことで、かっこ館の魅力アップとなり、大幅な入館者増につながりました。

(イ) 館内サービスの向上

- 次のように展示や、貴重な体験学習につながる館内サービスを拡充させました。常に実施方法を見直し、サービス向上に努めています。

【展示】

オーナメント類を活用した生物展示について、利用者からの評判も良いですが、キャプションを活用することでさらに生物への理解を深められる展示にしております。利用者からは「とても勉強になった」や「展示している生き物目線でのコメントがとても良いと思いました」などのコメントを頂いています。



【生物の展示】

【えさやり体験】

■毎日開催

週末のイベントとして不定期開催していたえさやり体験を毎日開催に拡充しました。

コロナ禍でタッチングプールの休止を余儀なくされたことから、それに代わる体験メニューとして鳥取県の県魚(現在は名誉県魚)であるヒラメのえさやり体験を開始しました。後に対象魚種を増やし、リピーターでも楽しめるよう拡充したことで広く定着し、令和4年度は延べ10,933人にご参加いただきました。



【エサやり体験の様子】

【生き物タッチング】

■飼育管理による休止日を除き毎日開催(週5日)

コロナ禍でタッチングプールの休止を余儀なくされ、上記のえさやり体験をスタートさせましたが、タッチング再開への要望を多くいただいていたことから、実施方法を見直し再開させました。従前の課題であった生物への負担を軽減させるため、職員が付き添い適切にサポートすることで課題をクリアにするとともに、職員の解説によってより理解を深められる体験メニューになりサービスを向上させました。

【バックヤードミニツアー】

■冬季の土日祝日開催

冬季においては、摂餌量の低下からえさやり体験の実施回数が制限されるため、サービス維持のためバックヤードミニツアーを実施しました。ストック水槽の生物紹介やドクターフィッシュ体験などかっこ館の限られたスペースを最大限に活用し、学習機会を提供しました。

1 管理運営の基本的な考え方

(ウ) 地域連携

a) 近隣集客施設との連携

- わったいな、かろいちをはじめとする近隣施設と連携し食のみやこ鳥取県大漁収穫感謝祭などを実施しました。またマリニピア賀露を安心安全に利用していただくため消防訓練、駐車場の管理などを合同で行い賀露地域への誘客を図りました。

b) その他の地域連携

- 賀露町自治会や子ども会と連携し、カヌー教室やイルミネーションなどのイベントを行い賀露地域の活動拠点として地域の賑わいづくりに貢献しました。
- (株)鳥取空港ビルと合同で、かにっこ空港ロードを利用したクリーンウォークを実施し賑わいの拠点となった賀露のPRを行いました。
- 鳥取環境大学のプロジェクト研究に参画し、プロジェクトチームの採集した水生生物展示の維持管理、イベントへの協力など学術研究の場を提供しました。

(エ) 広報、情報発信

- ホームページや SNS での情報発信をはじめ、無料のパブリシティを最大限に活用し、生物のユニークな生態が全国ニュースにも取り上げられました。また、多くの利用者が見込まれる時期には有料の広告媒体も取り入れ効果的な情報発信に努めました。

(オ) 開館 20 周年記念事業

a) 記念式典

- 令和5年8月に開館20周年を迎え、「蟹取県ウェルカニキャンペーン」も10年の節目を迎えることから、「カニバーサリー」と命名されました。かにっこ館の20周年記念式典はウェルカニキャンペーンとの共同イベントになり、多くの関係者にご臨席いただきました。

1 管理運営の基本的な考え方

b) ヤシガニ展示

- 20周年記念展示として、開館翌年から10年間展示していたヤシガニを展示しています。開館月の、夏らしく迫力のある甲殻類で、カニに引けを取らない人気のヤシガニをもう一度展示させたいと考え、約10年ぶりにヤシガニを登場させました。温度管理の面などで山陰では飼育の難しい生物ですが20周年の目玉展示です。



【ヤシガニ展示】

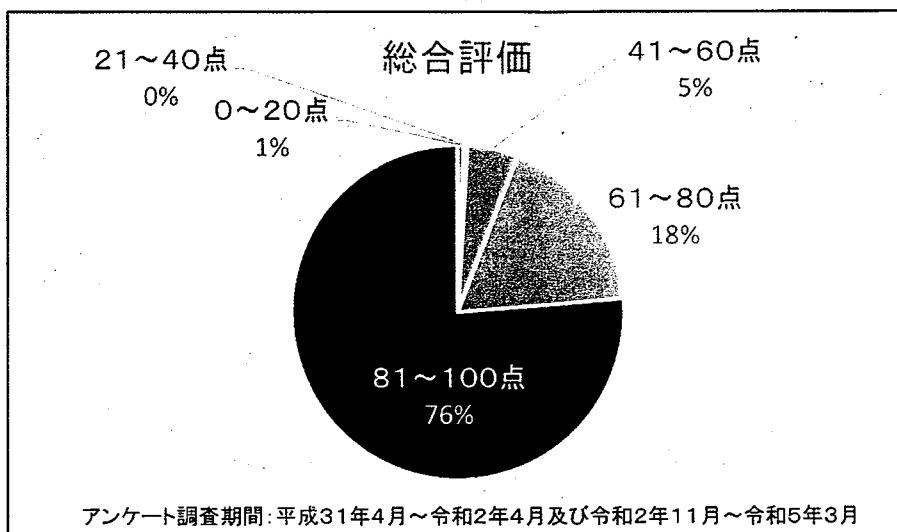
c) 広告・広報事業

- 多くの番組や紙面で紹介され、かっこ館をPRすることができました。

1 管理運営の基本的な考え方

イ お客様の声

- これらの取り組みが認知され、利用者からのアンケートでも高い評価をいただいています。



【アンケートに寄せられた声】

・かのにの脱皮映像など、貴重なものをたくさん見ることができました。また、普通の展示だけではなく、生き物の命の大切さを伝える、強いメッセージ性をもった所ということが伝わってきました。ありがとうございました。

・はじめて来館しましたが、クオリティの高さにおどろきました！！展示内容も充実できれい、ぜひ周りの友だちにも紹介したいです。トイレのさかななどのデザイン(手作りのものです)めっちゃかわいかったです！！

・子どもたちが興味をもって楽しめました。また環境問題についても勉強になる工夫がいろいろあり親としても大変ありがたく私たちも勉強になりました。

・生き物たちがとても大切にされていることや、愛されていることを感じます。子供たちに生き生きとした生き物を見せてあげることができたり、展示物からスタッフの方の愛情を感じることで生き物を好きになるきっかけになったりするとても素敵な場所でした。来るたびに展示がかわっていることも楽しいです。ありがとうございました。

ウ 次期指定管理に向けて

- かっこ館の3つのミッション「観光振興」・「水産振興」・「体験学習の場の提供」を達成するため、「魅力発信・賑わいづくり」・「遊び・学び」をキーワードとし、事業を展開します。

(ア) 魅力発信・賑わいづくり

a) マリンピア賀露及び周辺と一体となった施設づくり

- 「食」「体験」「遊び」「学び」が楽しめるマリンピア賀露周辺で「体験」「遊び」「学び」の役割を果たし、地域の魅力アップと賑わいづくりに貢献します。

b) 賀露町自治会や鳥取・賀露みなとオアシスとの連携

- 地元活性化団体である鳥取・賀露みなとオアシスと共に、鳥取港に入港するクルーズ船乗客のおもてなし、子どものための体験活動、地域美化活動等を共同実施し、地域の活性化に協

1 管理運営の基本的な考え方

力します。

(イ) 遊び・学び

a) 体験活動の充実

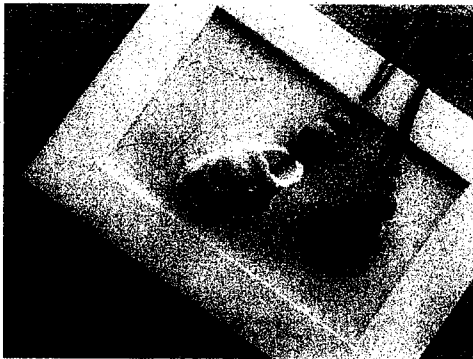
- 楽しみながら学べる次のような体験活動の充実により、子ども達に「遊び」から始める「学び」、「遊び」と融合した「学び」を提供し、鳥取県特産の松葉がにをはじめとする「かに」と水生生物への愛着、そして水産業への理解を育みます。

①水生生物を身近に感じられるふれあい体験

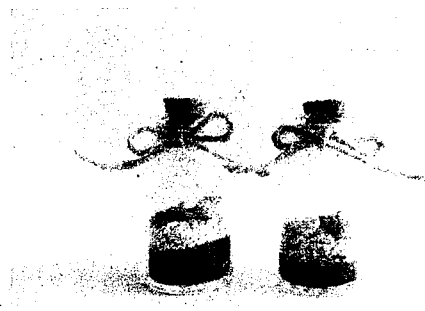


えさやり体験

②海の工作体験



貝殻アクセサリ作り



ボトルシェル作り

③飼育専門員の解説を交えた体験プログラム



バックヤードツアー

1 管理運営の基本的な考え方

b) 体験活動を通じたSDGs啓発

- SDGsの観点から近隣の海岸にフィールドを広げ、ヒラメの放流体験等を行い次世代を担う子どもたちの持続可能な海洋環境への理解を育みます。

c) 「遊び」「学び」機能向上のための体制作り

- 「遊び」と「学び」のための館内展示機能のレベル維持、向上及び職員のガイド力と知識の向上を目的として、水産関係者や専門家及び他県の水族館等との意見交換、交流活動を行います。

(2) 管理運営の方針

管理運営の基本的な考え方

- 鳥取県立とっとり賀露かっこ館の設置及び管理に関する条例において設置目的は「かにを中心とした多様な水生生物を展示してその生態等の紹介を行うとともに、これらの水生生物及び水産に関する体験学習の場を提供することにより、かにを中心とした水生生物及び水産の魅力をもっと鳥取県の内外に発信し、もって鳥取県の観光及び水産の振興に資するため」と定められています。
- 次期指定管理においては、「魅力発信・賑わいづくり」・「遊び・学び」をキーワードに、地域の皆様・団体・施設、水産関係者の皆様と一体となって地域の魅力アップと賑わいづくりに貢献するとともに、様々な体験活動を提供することで「かに」や水生生物への愛着と水産業への理解を育み、「観光振興」・「水産振興」・「体験学習の場の提供」の3つのミッションを果たしてまいります。



魅力発信・
賑わいづくり



遊び・学び

観光振興

水産振興

体験学習の場
の提供

- また、運営においては、これまでに培った地域の皆様・団体・施設、水産関係者の皆様とのつながりをより強固なものにし、県民の共有財産であるかっこ館が地元で根付き愛される施設となるよう持続可能な施設運営を進めてまいります。

ア 利用者へのサービス

- 生物への理解や愛着醸成につながる魅力的な水槽展示を行います。
- 「遊び」と「学び」を融合させたイベントの開催、出前かっこ館、地域内連携により、水産

1 管理運営の基本的な考え方

に関わる体験学習の機会を提供し、併せて賑わいづくりを行います。

- 公益財団法人鳥取県栽培漁業協会(以下「栽培漁業協会」という。)の指導助言、研修への参加等を通じ、職員の飼育技術向上による展示の魅力アップや接客スキルの向上を図ります。
- イベントチラシ、ホームページ、SNS、有料広告を有効に活用し、積極的な情報発信に努めます。
- 利用者及び関係者の意見を集め、サービスの向上に努めます。

イ 水生生物の飼育・展示・水産に関する体験活動の場の提供

(ア) 水生生物の飼育

- アニマルウェルフェアに配慮した飼育を行います。
- 栽培漁業協会との協定に基づき、飼育管理に関する定期的な指導助言、飼育技術のフォロー体制を整えます。

(イ) 水生生物の展示

- 小さな水族館ならではの利用者とスタッフの距離の近さを活かした展示に努めます。
- 生物の理解を深められる展示に努め、分かりやすく親しみやすい解説文を水槽に添えます。
- 持続可能な海洋環境、水産業への意識を喚起するため、環境問題などが分かる展示を行います。

(ウ) 水産に関する体験学習の場の提供

- えさやり体験や生き物タッチング、キンセンガニ釣りなどの体験メニューを提供し、生物への興味・関心、愛着を育みます。
- 地元保育園や子ども会を対象としたイベントとしてヒラメの放流事業を実施します。
- 四季の県魚を取り扱う料理教室を開催します。
- 貝殻やシーグラス、水生生物の卵などを利用した海の工作体験を開催します。
- 館外での体験学習の提供として「出前かっこ館」を実施します。
- 冬季にバックヤードを巡るツアーを実施します。

ウ 近隣集客施設や県との連携確保

(ア) 近隣集客施設との連携

- わったいな、かろいちをはじめとする近隣集客施設との連携を強化し、賀露地域全体で誘客を図ります。また、食のみやこ鳥取県大漁収穫感謝祭実行委員会に参画し、マリンピア賀露の合同イベントを開催します。

(イ) 県との連携

- また所管課である鳥取県水産振興課と目標を共有し、緊密な連携を図り適切な施設運営に努めます。その他、県の施策(男女共同参画、子育て王国、あいサポート運動、共生社会、鳥取県版環境管理システム(TEAS) I種など)についても積極的に推進します。

1 管理運営の基本的な考え方

工 多様な連携

- 賀露町自治会や子ども会と連携し、賀露地域の活動拠点として地域の賑わいづくりに貢献します。また、かっこ空港ロードで結ばれた交通拠点の鳥取砂丘コナン空港と連携して賑わいを創出します。
- 栽培漁業協会との協定に基づき、専門機関による定期的な飼育管理の助言指導、飼育員の研修、飼育技術のフォロー体制を整えるほか、放流用のヒラメの幼魚の提供を受けます。
- 鳥取環境大学のプロジェクト研究に参画し、プロジェクトチームの採集した水生生物展示の維持管理、イベントへの協力など学術研究の場を提供します。
- 和歌山県の「すさみ町立エビとカニの水族館」との協定に基づき、相互宣伝による幅広い集客促進と施設運営の向上を図ります。また、人材交流により飼育職員の技術の向上に努めます。

オ 利用者の増加

(ア) 多様なイベントの開催

- 利用者のニーズを把握し、体験メニューや工作体験のほか、芝生広場や野外フィールドも活用し幅広いイベントを開催し集客に努めます。
- 平日イベントを充実させるなど、利用者の平日の利用を促進し、館内の混雑解消に努めます。

(イ) 館内展示の充実

- 水槽展示においては、マンスリー水槽展示によって魅力を発信し、リピーターの来館を促進するとともに、多様な生物の生態を紹介することで、利用者の満足度向上に努めます。また、キャプションにて生物の生態を分かりやすく解説するだけでなく、クイズやコラムを交えて子どもから大人まで楽しみながら生物への理解を深められる展示に努めます。

(ウ) 効果的な情報発信……詳細はP.36～P.38を御参照ください

- ホームページや各種SNSでの戦略的な情報発信に努めます。また全国に情報を発信できるSNS上のイベントを増やし、併せて展示やイベント、周辺情報の拡散に努め、集客を図ります。
- ターゲットごとに広報手段を選定し、効率的かつ効果的な情報発信を行います。

1 管理運営の基本的な考え方

- 無料のパブリシティを最大限に活用します。ニュースや新聞記事に取り上げてもらうため、展示の更新や希少種の展示、新規事業実施の際には、積極的に情報提供を行います。

←

ツイート



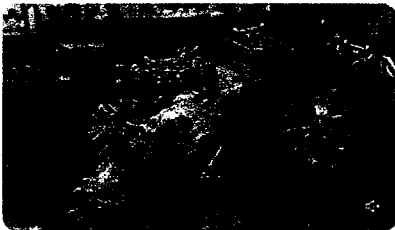
鳥取県立とっとり賓露かっこ館-T...
@kanikkokan

#ベンケイガニさんがアアアアア.....

お手本のような泡をふいていまし
た🐞

#アカテガニさんもおもわず凝視

..



1085回視聴

【公式ツイッター(現:X)の発信】

- 当財団は、鳥取県内の観光施設を一括で管理しており、情報や人脈を共有することで効率的に大きな集客力を発揮します。具体的には行政・観光団体・観光事業者と連携を取りながら、当財団が一体となって旅行者・学校公民館等への営業活動により集客を図ります。
- 水生生物及び水産に関する体験学習の場として利用いただくことを目的にして、当財団本部が中心となり鳥取県教育旅行推進協議会などとも連携して教育旅行の誘致を行います。

(工) 有識者による意見聴取

- 学識経験者や地元関係者から構成される「かっこ応援団」によって引き続き、多角的な視点で助言をいただき、施設運営、サービス向上、利用者の増加に活かします。

(オ) 複数施設一括管理の効果

- 当財団が管理運営している7施設との相互イベントの実施や共通広報の展開により利用促進に努めます。

カ 収入確保と経費の節減

(ア) 収入の確保

- ミニミュージアムショップの運営により売店収入を確保します。利用者のニーズを把握し、魅力的な商品を取り扱い、売上増加に努めます。
- 飼育系イベント、工作体験イベントについては、受益者負担の観点から適正な参加料を設定し、収入確保に繋がります。

1 管理運営の基本的な考え方

(イ) 経費の節減

- 競争入札、長期契約により経費を節減します。
- 複数施設の管理による事務・事業・人役等の効率化により、経費を節減します。
- 自主修繕・自主製作により経費を節減します。
- 無料媒体を利用した広報により経費を節減します。

キ 住民の公平な利用の確保

- かにかこ館が県立施設であることを強く認識し、特定の団体や施設、個人等に便宜を図らないなど、公平な利用を妨げることのないよう十分に留意し、住民の公平な利用を確保します。
- 乳幼児、障がい者、外国人など、誰もが公平に利用できるよう受入環境を整えます。
- アンケートや外部からの意見等に対して常に耳を傾け、更に公平な利用を推進するよう努めます。

ク 省エネルギー・省資源への取り組み

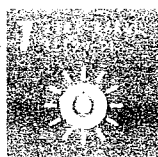
- 環境負荷の低減を考慮した商品を購入するよう努めるとともに、節水・節電等を常に意識し、エネルギー資源消費の低減化に努めます。
- 鳥取県版環境管理システム審査登録制度(TEAS) I種の環境管理マニュアルに基づき、常に環境に配慮した運営を行います。

ケ 関係法令等の遵守

- 労働、環境等の関係法令を遵守し、適正に業務を遂行します。
- 会計事務についても法令、内部規程に基づいて適切に行い、内部検査を定期的に行います。

コ SDGsの実現を推進

- 下記の7つのゴールを重点目標に掲げ持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けて、積極的に取り組みます。中でも、持続可能な海洋環境の保護に向けて取り組むとともにイベント実施や館内展示を通じて利用者に広く啓発を行います。



1 管理運営の基本的な考え方

(3) 達成目標

- 展示、体験を集客の柱に据えるとともに、地域イベント推進などを通じて、毎年着実に入館者数を増やしていく計画とします。最終年度には年間29万人の入館者数を目標とします。
- なお、社会情勢等の変化があった場合は、鳥取県との事前協議を行った上で、適切な目標を設定してまいります。

| 基準数 平成30年 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 |
|--------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 256,381人 | 230,000人 | 245,000人 | 260,000人 | 275,000人 | 290,000人 |

(4) 他の施設管理の実績

| | 施設名 | 所在地 | 管理期間 | 管理内容 |
|---|-------------------------|--------------------------|--------------------|--|
| ① | 鳥取砂丘こどもの国 施設所有者:鳥取県 | 鳥取市浜坂 1157-1 | 平成11年4月 ～現在管理中 | 自然とのふれあいや遊びを通して子どもたちが憩い楽しめる場を提供し、もって児童の健全な育成に資する。 |
| ② | 氷ノ山自然ふれあい館 施設所有者:鳥取県 | 八頭郡若狭町 つく米 635-175 | 平成11年4月 ～現在管理中 | 国定公園氷ノ山の豊かな自然を紹介し、その魅力を体験できる場を提供するとともに、自然を大切にすることを育む。 |
| ③ | 東郷湖羽合臨海公園 施設所有者:鳥取県 | 東伯郡 湯梨浜町藤津 650 | 昭和54年10月 ～現在管理中 | 県民のレクリエーション活動の振興を図ることにより、県民の心身の健康増進を図る。 |
| ④ | 中国庭園燕趙園 施設所有者:鳥取県 | 東伯郡 湯梨浜町引地 565-1 | 平成7年7月～ 現在管理中 | 鳥取県中部地域の観光の拠点施設として、また鳥取県と中国河北省との友好のシンボルとして鳥取県の観光振興に資する。 |
| ⑤ | 夢みなとタワー 施設所有者:鳥取県 | 境港市 竹内団地 255-3 | 平成10年5月 ～現在管理中 | 本県及び環日本海諸国を中心とする国内外の自然、歴史、文化等の紹介並びに物産の展示及び宣伝を行い、もって本県の観光に資する。 |
| ⑥ | とっとり花回廊 施設所有者:鳥取県 | 西伯郡南部町 鶴田110 | 平成11年4月～ 現在管理中 | 県民に花と緑にあふれる憩いの場を提供するとともに、観光及び花き振興に資する。 |
| ⑦ | 鳥取二十世紀梨記念館 施設所有者:鳥取県 | 倉吉市 駄経寺町 198-4 | 平成21年4月 ～現在管理中 | 梨に関する産業、歴史及び文化への県民の理解を深めるとともに、観光及び果樹の振興に資する。 |
| ⑧ | 青谷かみじち史跡公園 施設所有者:鳥取県 | 鳥取市 青谷町青谷 667 | 令和5年11月～ 管理開始予定 | 青谷上寺地遺跡を歴史遺産として引き継いでいくとともに、遺跡の魅力を鳥取県の内外に発信し、遺跡の適切な保存及び活用を図り、もって県民の文化向上に資する |

2 サービスの提供内容

(1) 水生生物の飼育管理業務

- 開館以来協力いただいている地元水産関係者との関係を引き続き大切にしてし生物を収集するとともに、太平洋側などで採取される近海の海では入手困難な生物については提携している県外水族館などから生物交換等によって収集することができており、今後一層良い関係を築いてご支援をいただきます。
- 小さな水族館ならではの利用者とスタッフの距離の近さ(利用者が展示を見るエリアでスタッフが作業を行っているので利用者と触れ合うことができること。詳細はP. 16を御参照ください。)を活かした展示に努めるとともに、生物についての理解を深められることができる展示に努め、利用者にも分かりやすく親しみやすいと人気の解説文を水槽に添え満足度の向上に努めます。

ア 水生生物の収集

- P.19に記載する各展示ゾーンの展示方針に沿って、近海魚を中心としながら、それぞれのテーマに沿った展示を行い、利用者に幅広い学びを提供できるよう、多種多様な生物を収集します。

(ア) 鳥取の魚(生物)の収集

- 開館以来培われた、水産試験場や栽培漁業センター、地元漁師の方々など水産関係者などとの関係を継続し、水生生物を幅広く収集できる環境を整えます。地元水産関係者のおかげで展示としては世界的にも珍しいベニズワイガニのメスや人気のハコフグなどの展示が行うことができ、出前かにつこ館にはネコザメなどを連れていくことができます。



【豊進丸(賀露)より人気のハコフグの提供】



【水産試験場よりベニズワイガニメスの提供】



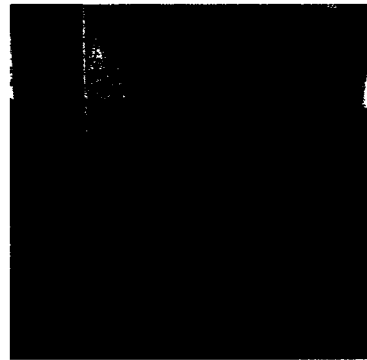
【県漁協からいち店より白色ズワイガニの提供】

2 サービスの提供内容

- 鳥取県漁業協同組合、田後漁業協同組合、千代川漁業協同組合から協力を得て水生生物を独自でも採取する環境を整えます。

(イ) その他の収集

- 提携している和歌山県「すさみ町立エビとカニの水族館」や島根県「宍道湖自然館ゴビウス」など他施設との協力関係に基づいて、引き続き生物の相互提供や貸借による幅広い生物収集に努めます。



【和名：マツバガニ、エビとカニの水族館より提供】

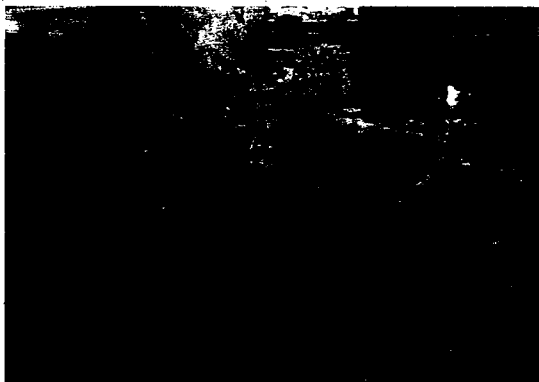


【鳥取では珍しい「ミツボシクロズメダイ」：ゴビウスより提供】

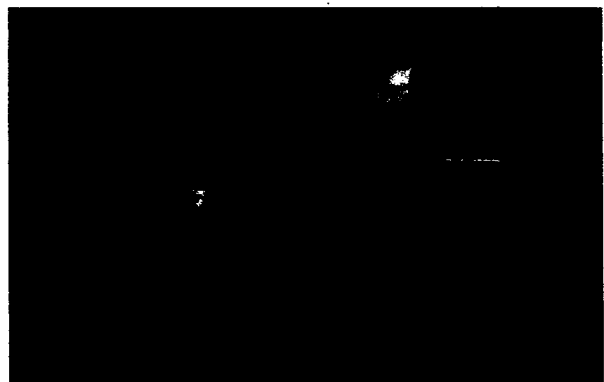


【ミドリフグ：ゴビウスより提供】

- 企画展示やイベントで必要となる水生生物は、自主採取や専門業者からの購入などで収集します。



【人気投票は必ず1位になるタカアシガニ】



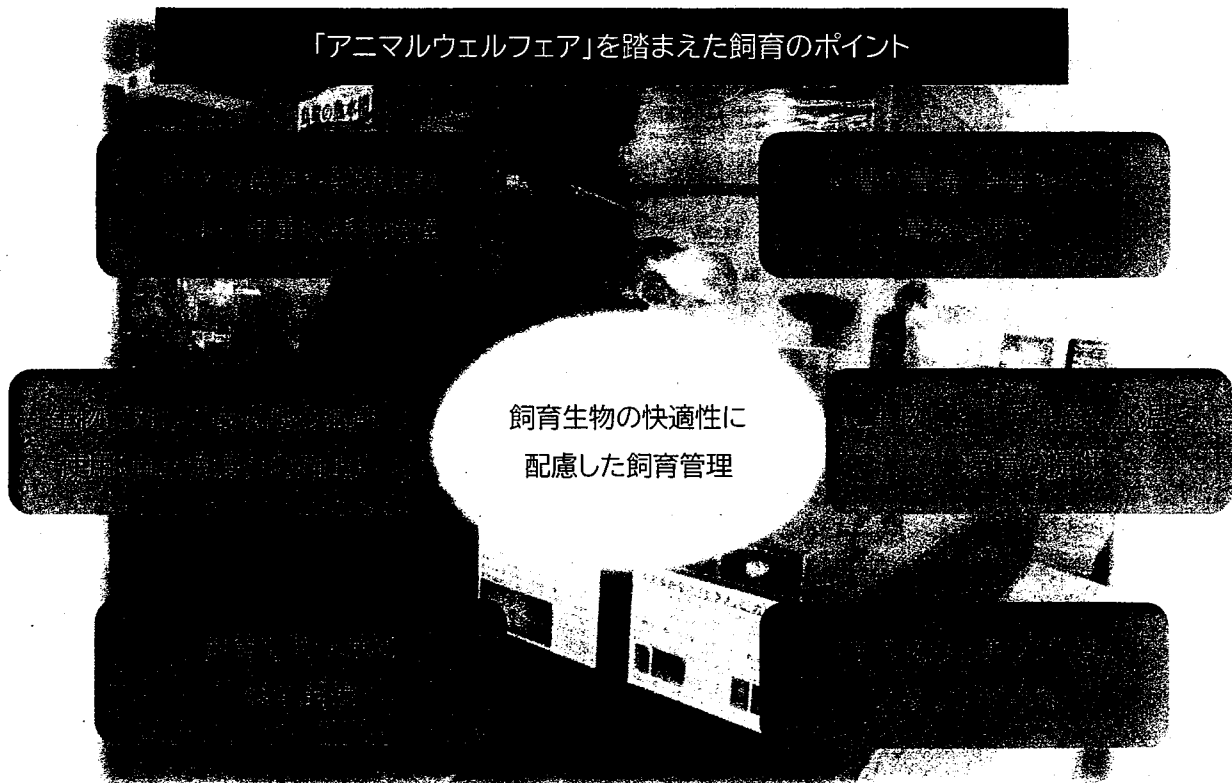
【幅広い世代で人気のクラゲ】

2 サービスの提供内容

イ 水生生物の飼育

- アニマルウェルフェア(動物福祉)に配慮した飼育を行います。
- 地元漁業関係者などより提供された生物を適切に飼育管理し、利用者を楽しんでいただける展示に努めます。
- 飼育管理の体制は引き続き、県内の水産機関や提携先の水族館などからも点検やフォローアップを受けられる体制を継続します。
- 職員のスキルアップのための研修を実施します。(詳細は P.62 7 組織及び職員の配置等以降に記載します。)

(ア) アニマルウェルフェアを踏まえた飼育

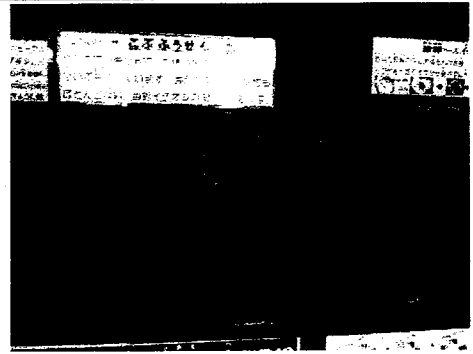


- 水生生物の飼育について、**生物の健康と福祉を最優先にし**、以下の方法で管理し病気や斃死の防止に努めます。
- 飼育環境(水温・水質・換水率等)の確認及び調整、飼育設備(水槽・濾過器・調温装置・ポンプ等)の点検及び管理を行い、毎日水槽清掃を行うことで水質変化の少ない安定した水槽環境を保ち、**生物への負担低減を図ります**。
- 動物福祉の観点から飼育生物は**終生飼養を原則とし**、必要なケアやニーズを満たすことでその寿命にわたって責任を果たします。
- 生物に対して薬剤の使用は最小限に抑えます。体調不良を起こした生物に対しては、薬剤の使用が弱った体の負担になることもあるため使用を極力控え、ストレスの少ない適切な環境を確保し、**自己免疫力向上による自然治癒を試みます**。
- 飼育イベント「生き物タッチング」の実施においては、利用者が生物を乱暴に扱うことのないようスタッフが付き添い**生物管理の目が行き届く体制を整えます**。

2 サービスの提供内容

(イ) 地元水産関係者と飼育技術の融合

- 地元漁師や鮮魚店などの水産関係者より提供いただき、生物を適切に飼育管理します。
- 水質・水温管理などを適切に行い、地元カニ漁の漁師より提供いただいた飼育・繁殖の難しいコブフウセンウオのふ化に成功し、その後も順調に育てています。展示している水族館の少ない可愛らしいコブフウセンウオを目玉展示にします。
- 地元漁師から提供いただき、飼育の難しいビクニンやハコフグなども適切に飼育管理を行い、人気の高い魚種の展示を呼び物の一つにします。



【コブフウセンウオ】

(ウ) 県内水産機関などからのフォロー体制

- 従来から指導助言を受けている栽培漁業協会と飼育業務について、令和6年度より協定を結び定期的に飼育管理の点検も行います。(協定の締結については合意済み)また、緊急時にも対応する体制も整えます。



【水槽の点検】

- 引き続き水産試験場や栽培漁業センターなどの県内水産機関や、P.14の協定の締結などしている水族館からも助言、支援をもらえるを体制を整えます。
- 感染症の流行などで職員の出勤ができなくなった場合を想定して、以前かにかっこ館に所属していた当財団の職員を派遣して飼育業務を継続できる体制を整えています。

ウ 水生生物の展示

- 小さな水族館ならではの利用者とスタッフの距離の近さを活かした展示に努めます。
- 生物の理解を深められる展示に努め、分かりやすく親しみやすい解説文を水槽に添えます。
- 持続可能な海洋環境、水産業への意識を喚起するため、環境問題などがわかるSDGs展示を行います。

(ア) 利用者とスタッフ(飼育員)の距離の近さ

- 通常の水族館であれば原則、飼育管理はバックヤードから行いますが、かにかっこ館の場合はそのような構造になっておらず利用者が見る展示場所からの飼育管理になります。これが水族館として、かにかっこ館の最大の特徴と考え、利用者とスタッフの近さを生かした展示に努めます。
- スタッフが利用者エリアで作業をしているので、興味や疑問を持った利用者にもその場で説明することができます。このような利用者とのふれあいは展示の重要な一部

2 サービスの提供内容

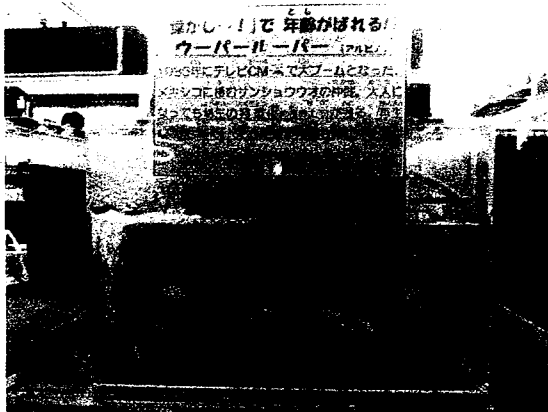
と考えています。

- バックヤードも常に、利用者に見ていただくことができるため、いつも清潔にし、見やすい状況を保ちます。
- 冬季を中心にバックヤードツアーを開催し、実際にバックヤードの中にも入っていただき、利用者と密に接します。
- バックヤード越しでも利用者の対応(質問の回答など)を行います。

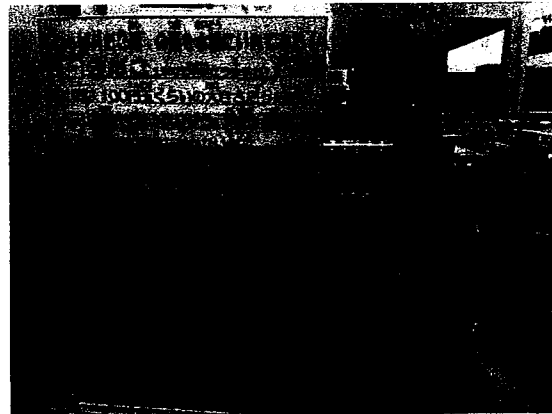


【展示室から見たバックヤード】

- 利用者との会話を参考やヒントにして、展示はもちろん飼育業務にも活かします。例えばウーパールーパー水槽の隠れ家や、タコの餌を鶏肉のさき身に変更することなど、利用者からいただいた情報を展示・飼育業務に活かし、利用者スタッフの距離の近いことならではの展示などを行っています。



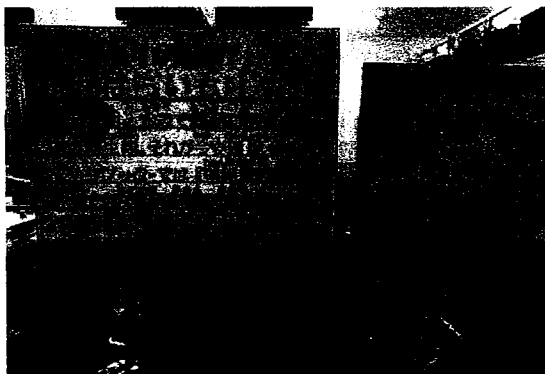
【ウーパールーパーの展示】



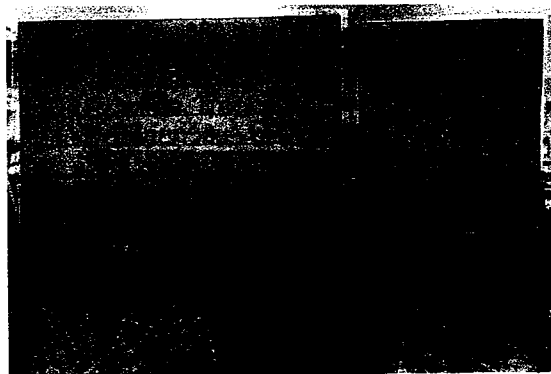
【マダコの展示】

(イ) 生物への理解を深められる展示

- 展示では、多様な水生生物を取り上げ、その特徴や生態を広く紹介します。分かりやすく親しみやすい解説文によりお子様から大人まで生物への理解を深められる展示に努めます。



【アカハライモリ展示のキャプション】



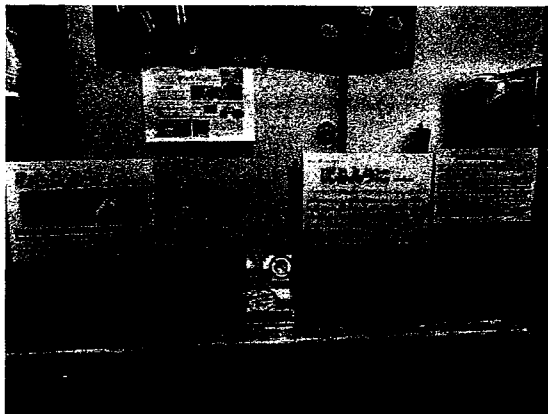
【シーポニー展示のキャプション】

- 生物への愛情を持ち命の大切さを伝えるメッセージを発信し、豊かな情操を育てていける展示を心掛けます。

2 サービスの提供内容

(ウ) SDGs 展示

- 鳥取ブルーカーボンプロジェクトなどとの連携により展示や解説文を通じて生物保護や水産資源の管理の重要性を訴求し、持続可能な海洋環境、水産業への意識を喚起します。
- 磯焼けの問題など現在進行形の問題を提起し、何が原因なのか、解決のためには何が必要かなど生物だけではなく環境問題についての展示を行います。
- 外来生物などを通じて人間と生物の関わりを伝え、生態系や生物多様性への影響や、漁業や農業など人間の経済活動への影響について学べる展示に努めます。



【磯焼けの紹介展示(ムラサキウニなど)】



【捨てられたペット(アカミミガメなどの展示)】

(2) 観光及び水産振興に係る業務

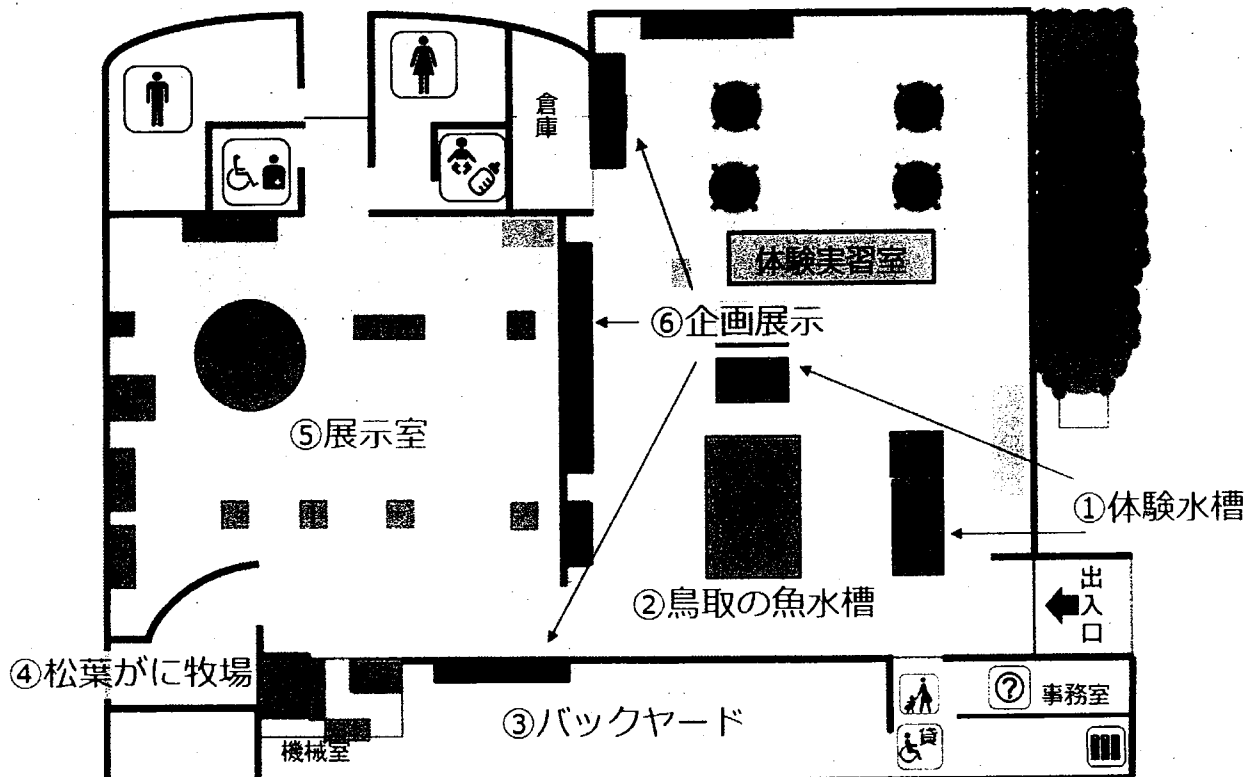
ア 水生生物の展示、生態等の紹介・イベント実施

- 前述した P.16～P.18、(1)-ウの水生生物の展示と併せて、次の(ア)と(イ)を実施します。

(ア) 水生生物の展示・生態等の紹介方法に係る基本的な考え方

a) ゾーンごとにテーマを定めた展示

- 利用者にとってわかりやすく、幅広い学びのため、それぞれのゾーンごとにテーマを定め生物の展示を行います。



- ① 体験水槽(タッチングやエサやりができるコーナー)
- ② 鳥取の魚水槽(鳥取の海で見られる生物の展示)
- ③ バックヤード
- ④ 松葉がに牧場(ズワイガニなど深海の生物の展示)
- ⑤ 展示室(甲殻類中心の展示)
- ⑥ 企画展示(近海の生物と近海では見られない生物のコラボレーション展示)

2 サービスの提供内容

- 水生生物の展示においては、その視覚的な魅力だけでなく、生態系と海洋生物への理解を促すための教育的な側面も十分に考慮します。小さなお子様の利用も多いことを考慮し、解説文にはひらがなを併記します。



【海洋汚染展示(どっちの海がいいですか?)】



【捨てられたペットのコーナーのキャプション】

- 生き物目線でのコメントやユーモラスな解説がお客様アンケートでも高い評価をいただいています。生物を身近に感じ、愛着醸成につながるよう親しみやすい展示を心掛けます。

b) 学術研究の場の提供・学習発表の場の提供

① 公立鳥取環境大学のプロジェクト研究への参画

- プロジェクトチームが採取した水生生物展示の維持管理、イベント開催に協力します。
- この事業に参画することでナレッジの共有・蓄積ができ、飼育技術の向上につながります。

② かにっこ自由研究コンクール

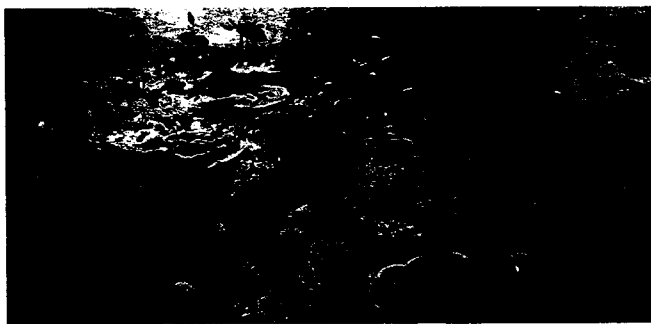
- 県内の未就学児から小学生を対象にした夏休みの自由研究を集めた「かにっこ自由研究コンクール」を実施し、持続可能な未来のために必要な意識と行動を育む機会を提供します。

2 サービスの提供内容

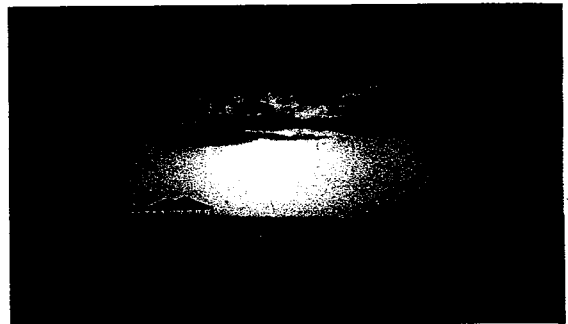
(イ) イベントの実施

- 通常の展示だけでは伝わりにくい生物の生態などの紹介のため、イベントを実施し理解を深め生物の魅力を伝えます。
- 利用者の幅広い学びと、館内混雑解消を目的とした平日利用促進のため、次のイベントを実施します。
- 観光振興のイベントはP.26を参照ください。また水産振興のイベントはP.27を参照ください。

| イベント名 | 内容 | 年間実施回数等 |
|--|---|---|
| 探索系イベント （「〇〇を探そう」 〇〇は春や夏、 クリスマスなど） 拡大 | 現在、夏休みなどの長期休暇に限定して開催している探索系イベントを常設します。数か所の展示水槽に設置した旬のオーナメントなどを探して回答します。人数制限なく誰でも参加できる参加型イベントで、入館者が多いときでも展示を見る以外の楽しみ方を提供します。 | 324日 |
| えさやり体験 | 基本的に毎日開催とし、魚のえさやりを行います。対象魚種は複数設定し、リピーターでも繰り返し楽しめるメニューにします。 | 324日 |
| 生き物タッチング | サメやヒトデなどの生物とのふれあいを通し、生物への理解、愛着の醸成を図ります。また、スタッフがサポートします。 | 263日 |
| キンセンガニ釣り | 夏の特別メニューとして、ユニークなカニ釣り(キャッチ&リリース)を実施し、キンセンガニの生態を紹介します。 | 10日 *夏季 |
| バックヤードツアー (解説付き体験プログラム) | 冬季の限定メニューとして開催し、バックヤードで暮らす生物もご覧いただけます。スタッフのガイドにより進行し、より深い理解に繋がります。 | 30日 *冬季の土日祝日 |
| チリメンモンスター探し | シラス干しやチリメンジャコの加工物の中に入っている、タツノオトシゴやエビやカニなどを宝探しの感覚で楽しみ、成体との姿の違いなどを学習します。スタッフの解説により、より深い理解に繋がります。 | 4日 |
| ナイトアクアリウム (夜間開館) 拡大 | 夏・冬ナイトアクアリウムを開催します。それぞれ開催期間中は、Instagram を利用したフォトコンテストを開催します。かにかっこ館のみならず、夕陽のきれいな砂浜など賀露地域で撮影された写真を募集し、地域内の周遊機会を創出するとともにSNSで実施することで賀露とにかにかっこ館の情報を全国に発信し、認知度向上と集客につなげます。また、冬季には鳥取・賀露みなとオアシスとNPO団体Ola Tottori と連携して芝生広場にイルミネーションを設置し、ナイトアクアリウムとともに賑わいを創出します。 | 夏2日 冬2日 *フォトコンテスト、イルミネーションはP.26参照 |
| かにかっこ自由研究コンクール | 鳥取県内の未就学児から小学生を対象にした夏休みの自由研究を集めたコンクールを実施します。入賞作品は11月から12月にかけて展示します。 | 1回 (表彰式 11/3) |



【ナイトアクアリウム(写真はイメージです)】



【美しい賀露海岸の夕日】

2 サービスの提供内容

イ 出前かっこ館

- 県民の方々に水生生物に関する体験学習の幅広い提供や水生生物の魅力の発信を目的とし、体験型の移動水族館である「出前かっこ館」を実施します。
- 主に幼稚園、保育園、小学校で実施する場合は現在、実施している展示や生き物タッチングなどと併せてSDGs啓発のため豊かな海を守る紙芝居を行い、次世代を担う子ども達に対して意識啓発を行います。 **新規**

(ア) 実施対象

出前かっこ館を実施する対象は、次のとおりです。

- ① 県内の高齢者介護及び障がい者支援等を目的とした社会福祉施設等で実施する場合
- ② 県内の保育園、幼稚園、認定こども園及び小学校等で実施する場合
- ③ 県内の公民館等の社会教育施設等で実施する場合
- ④ 県内の観光施設又は地域行事等で実施する場合

(イ) 実施期間、時間帯

- 毎年4月1日～3月31日に実施します。 **拡大**
- 午前10時～午後3時30分のうちの1時間とします。

※時間延長は可能です。

(ウ) 料金

- 出前かっこ館は、原則として有料とします。料金は人件費、消耗品費など実費相当額とし、実施する地域に応じて、右表に定めるとおりとします。なお通常業務や職員配置の関係から、月2回程度を限度として実施いたします。

| 実施地域 | 基本料金(税込) |
|------|----------|
| 東部地区 | 18,000円 |
| 中部地区 | 22,000円 |
| 西部地区 | 30,000円 |

- 実施時間が1時間を超える場合は、超過する1時間につき人件費相当額の2,500円(税込)を加算します。

2 サービスの提供内容

(工) 料金の減免

- 来館が難しい県民を対象にしたものについては減免とします。具体的には次に該当する場合とします。
 - ①県内の高齢者介護及び障がい者支援を目的とした社会福祉施設等で平日に実施する場合 基本料金の全額
 - ②県内の保育園、幼稚園、認定こども園及び小学校等で平日に実施する場合 基本料金の全額
 - ③県内の公民館等の社会教育施設等で平日に実施する場合 基本料金の全額

(オ) 実施内容

- 出前かにかっこ館の内容は、ウニ・ヒトデ・サメ・カニなどのタッチング水槽及び展示水槽などとなります。ただし水生生物の種類及び数量等は状況により決定します。
- 幼稚園、保育園、小学校で実施する場合は、上記に併せてSDGs啓発のため豊かな海を守る紙芝居を行います。

(カ) 申込方法

- 実施希望日の前月20日までに、かっこ館へ文書により申し込みすることとします。文書による申し込みは直接持参、郵送のほか、FAX、電子メールによることができます。

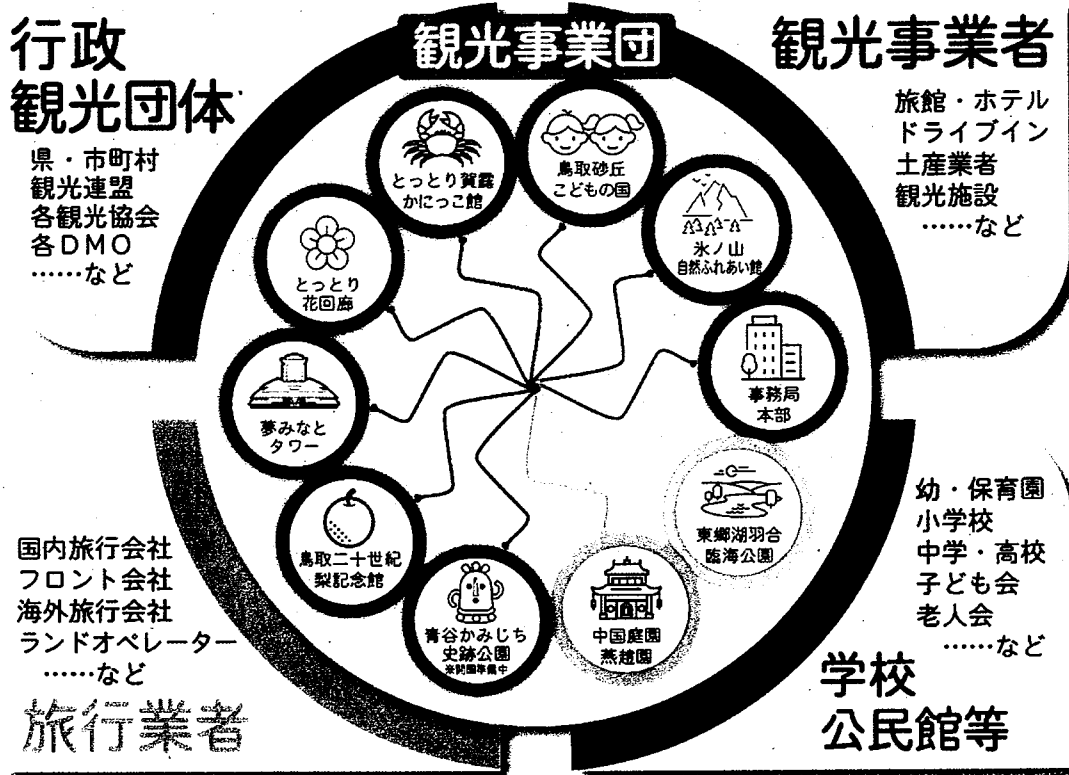
参考)令和4年度利用実績

| 実施月 | イベント名 | 参加者数 |
|-----|---------------------------------------|--------|
| 7月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(八頭町子育て支援センター) | 50人 |
| 7月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取市西品治児童館) | 200人 |
| 8月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取市立下佐貫児童館) | 30人 |
| 8月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取二十世紀梨記念館なしかっこ館) | 500人 |
| 9月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(わらべ館) | 200人 |
| 9月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取市立北中学校) | 30人 |
| 10月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取砂丘こどもの国) | 300人 |
| 10月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取福社会マロニエの樹) | 30人 |
| 11月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取市立西円通寺児童館) | 20人 |
| 11月 | カニ類の水槽展示(まるごと境港市場) | — |
| 12月 | カニ類の水槽展示(まるごと境港市場) | — |
| 12月 | サメ、ヒトデ、ウニ等のタッチングプール(鳥取市立麻生児童館) | 50人 |
| 合計 | | 1,410人 |

ウ 鳥取県の観光及び水産の振興を図るための提案・行事

(ア) 観光の振興

a) 営業活動、広報、情報発信による観光振興



※管理運営施設はR5年7月現在のものです

- 営業商材は、展示や毎日のイベント情報はもちろんのこと、SNSで話題になった投稿などを用います。P. 36以降に説明する、Webツールの効果分析等による効果的効率的な活用など多様な方策を連動させた、施設の利用促進に向けた広報の取り組みと一体にして効率的な営業を行います。
- 当財団は、鳥取県内の観光施設を一括で管理しており、情報や人脈を共有することで効率的に大きな集客力を発揮します。
- かにっこ館スタッフは少人数であり単独での旅行者への営業活動などは限りがありますが、行政・観光団体・観光事業者と連携を取りながら、当財団が一体となって旅行者・学校公民館等への営業活動により集客を図ります。
- 設置目的でもある、水生生物及び水産に関する体験学習の場として利用いただくことを目的にして、当財団本部が中心となり鳥取県教育旅行推進協議会などとも連携して教育旅行の誘致を行います。

- インバウンド誘客についても国内外で開催される商談会に、当財団が一体となって積極的に参加いたします。

2 サービスの提供内容

- 鳥取県内の観光関連施設が相互協力を行い誘客を推進するために設立された「鳥取県観光施設協議会」に加入しており、県内観光施設と共同誘客キャンペーン等を行います。
- マリンピア賀露周辺の事業者が行う営業活動に参加します。
- 幼稚園、保育園、学校や公民館へのチラシ配布も引き続き行います。

2 サービスの提供内容

b) イベント実施による観光振興

- かにっこ館内はもとより、賀露海岸などにもフィールドを広げ、地域の自治会、団体等とも協力連携してイベントを実施することで賑わいを創出し、地域の活性化に取り組みます。
- 水生生物のイベントはP.21を参照ください。また水産振興のイベントはP.27を参照ください。

| イベント名 | 内 容 | 年間実施回数等 |
|---|---|--|
| Instagram かにっこ 絵画コンクール | 地元の(株)中村商店と共催で、Instagram を利用した絵画コンクールを開催します。ズワイガニの漁期に合わせてカニをテーマにした絵画を募集し、県内のみならず全国へ発信し、松葉がに及びかにっこ館の認知度向上につなげます。 | 1回(ズワイガニ漁開始～2月末まで募集) |
| Instagram フォトコンテスト & イルミネーション 拡大 | 夏・冬に開催するナイトアクアリウムを利用して、Instagram フォトコンテストを開催します。かにっこ館のみならず、夕陽のきれいな砂浜など賀露地域で撮影された写真を募集し、地域内の周遊機会を創出するとともに、全国へ発信し、賀露とかにっこ館の認知度向上につなげます。 また、冬季には鳥取・賀露みなとオアシスと NPO 団体 Ola Tottori と連携して芝生広場にイルミネーションを設置し、ナイトアクアリウムとともに賑わいを創出します。 | 【フォトコンテスト】2回 ◆夏:募集時期、夏休み ◆冬:募集時期、12/21～1/13(R6年度) 【イルミネーション】1回 ◆フォトコンテストの冬に同じ *ナイトアクアリウムはP.21参照 |
| マリンピア賀露 周遊ビンゴ | マリンピア賀露周辺を散策しながらビンゴし、楽しいちやわったいなへも周遊を促すことで、周辺施設の利用促進を図ります。 | 5回(ゴールデンウィーク等の長期休暇) |
| かにっこ マルシェ | 「海」「魚」「蟹」をキーワードに海ゴミDIY、絵本読み聞かせ、音楽、ワークショップなどの出店者を募集し、マルシェを開催します。芝生広場を活用し、地元住民や観光客が集う交流の場を提供し、かにっこ館および周辺施設の利用促進を図ります。 | 2日(5月) 2日(10月) |
| 海の工作体験 | 貝殻やシーグラスなどの海洋自然素材を使った親子で楽しめる工作イベントを開催します。 | 44日(繁忙期を除く週末1日の開催) |
| 芝生広場スポーツ イ ベ ン ト 拡大 | 朝ヨガやモルック大会を開催し、芝生広場の利用拡大、マリンピア賀露への誘客を図ります。 | 2日(6月、10月) |
| 海水浴場スポーツ イ ベ ン ト 拡大 | 賀露海水浴場でビーチクリーンを実施するとともにビーチフラッグス大会やシーカヤックの体験教室などを行います。 | 2日(7月、9月) |
| 開館 25 周年 新規 | 週末のプレゼント企画や広報事業などに力を入れマリンピア賀露への誘客を図ります。 | 令和10年度 |

2 サービスの提供内容

(イ) 水産の振興

- 水産振興を図るための行事等については、次の3点を基本的な考え方とし、下表の行事などを行います。
 - ① 体験により生物への理解促進と愛着醸成を促します。
 - ② 展示による持続可能な海洋環境への意識醸成を図ります。
 - ③ 魚料理教室等の実施により魚食の魅力を発信し、水産物の消費拡大を目指します。
- 水生生物のイベントはP.21を参照ください。また観光振興のイベントはP.26を参照ください。

| イベント名 | 内 容 | 年間実施回数等 |
|------------------------------|---|----------------------|
| 四季の県魚の料理教室 拡大 | 令和4年7月に制定された四季の県魚の料理教室をかるいち及び、鳥取県漁業協同組合と協働で開催し、調理法や健康効果など魚食の魅力を紹介します。5年間の指定管理期間に21種の県魚の取り扱いを目指します。また、その様子をリモートで「道の駅燕趙園」「夢みなとタワー」で中継し、県魚の更なる普及に努めます。※夏の実施は要検討 | 4日 (春夏秋冬) |
| かにつこ試食まつり 新規 | ハタハタ、カレイ、バイガイなどの試食を人数限定で行います。魚介類の美味しさを再認識していただき魚食普及を目指します。 | 2日程度 (5月、10月頃) |
| カニのトークセッション 新規 | 水産業や漁業に関心をもっていただくため、かにつこ館の飼育員とカニ漁の漁師とが、ズワイガニについてトークセッションを行います。飼育員から見たズワイガニと漁師から見たズワイガニの違いなど、ズワイガニの魅力に迫ります。 | 1日 (10月) |
| 「四季の県魚」大喜利コンテスト 新規 | R5年2月に県水産振興課で実施された四季の県魚大喜利キャンペーンの後継イベントです。ツイッターにてコンテストを実施します。鳥取県の特産品のPRおよび、魚食普及につなげるとともに全国に発信し、四季の県魚とかにつこ館の認知度向上につなげます。 | 2回 (年により実施時期を変える) |
| ヒラメの放流事業 | 栽培漁業協会の協力により、地元保育園、子ども会の行事、またはイベントとしてヒラメの放流を行い、栽培漁業の紹介を行うとともに、海洋資源の枯渇などの環境問題についても説明を行い、次世代を担う子ども達に対して意識啓発を行います。 また、地元の子どもたちに鳥取県の名誉県魚であるヒラメを紹介することで、鮮取県としてのPRも行います。 | 5日程度 (6月、7月) |
| 親がに釣り体験 | ズワイガニ解禁に合わせてお子様向けの親がに釣り体験を実施します。カニシーズンの賑わいを創出するとともに鳥取県の特産品のPRおよび魚食普及につなげます。 | 1日 (11月) |

2 サービスの提供内容



【親がに釣り】



【四季の県魚】

エ 自主事業

(ア) ナイトアクアリウム **拡大**

a) 事業内容

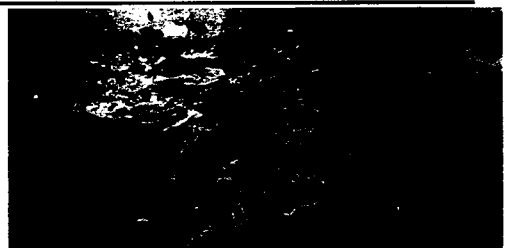
- 夏・冬の年4回ナイトアクアリウムを開催します。

b) 事業実施の目的及び効果

- ナイトアクアリウムをさらに盛り上げるため、夏休み期間中と12/21頃から1/13頃の間は、Instagramを利用したフォトコンテストを開催します。また、かっこ館のみならず、夕陽のきれいな砂浜など賀露地域で撮影された写真を募集し、地域内の周遊機会を創出します。
- SNSで実施することで賀露とかにかっこ館の情報を全国へ発信し、認知度向上と集客につなげます。
- また、冬季には鳥取・賀露みなとオアシス、NPO団体 Ola Tottori と連携して芝生広場にイルミネーションを設置し、ナイトアクアリウムとともに賑わいを創出します。

c) 収支計算

- 収入見込 0円
- 支出見込 0円



【ナイトアクアリウム(写真はイメージです)】



【賀露海岸の夕日】



【R4年12月のイルミネーション】

(イ) 水槽改善のためのクラウドファンディング **新規**

a) 事業内容

- 体験メニューで使用するFRP水槽の改善を目指しクラウドファンディングを実施します。
- 水槽設備の設置については、事前に県と協議を行った上で実施します。

b) 事業実施の目的及び効果

- 体験メニュー実施の利便性向上のため現在使用している簡易水槽から、より強力で耐久性

2 サービスの提供内容

があり、安定した配管設備を接続できる FRP 水槽への更新を目指すため、クラウドファンディングを行います。

- 顧客満足度の高い施設運営を行うことでかっこ館のファンを獲得し、更なるサービス向上に還元します。
- ご支援を頂いた方へのリターンは出前かっこ館、スポンサー水槽への掲示、バックヤードツアー、オリジナル T シャツなどです。
- 目標額に未達であった場合、実施を見送る可能性があります。

c) 収支計画

- 収入見込 1,700,000円
- 支出見込 2,215,799円
(内訳)
 - 消耗品費 82,000円
 - 通信運搬費 36,000円
 - 手数料 289,000円
 - 委託料 260,000円
 - 減価償却費(8年) 1,548,799円

(ウ) ヒラメの放流事業

a) 事業内容

- 栽培漁業協会よりヒラメの幼魚を無償提供いただきます。
- 地元保育園、子ども会の行事、イベントとしてヒラメの放流を行います。

b) 事業実施の目的及び効果

- 地元保育園、子ども会の行事、またはイベントとしてヒラメの放流を行い、栽培漁業の紹介を行うとともに、海洋資源の枯渇などの環境問題についても説明を行い、次世代を担う子ども達に対して意識啓発を行います。
- また、地元の子どもたちに鳥取県の名誉県魚であるヒラメを紹介することで栽培漁業、及び鳥取県は鯉取県でもあることを紹介します。

c) 収支計画 (R6年度)

- 収入見込 0円
- 支出見込 0円

(エ) ミュージアムショップの運営

a) 事業内容

- 水生生物をモチーフにしたぬいぐるみや文房具などのグッズ、オリジナルグッズ、工作キット等を販売します。

b) 事業実施の目的及び効果

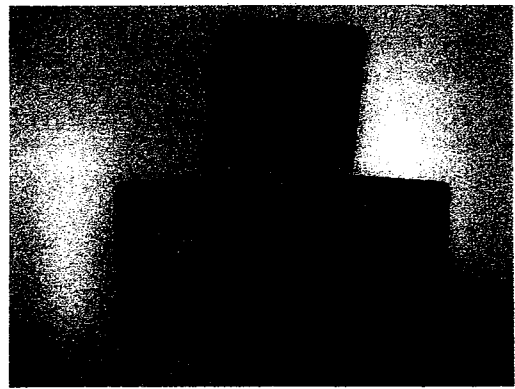
- 購入した商品を通じて、来館の記憶を形に残しより思い出深いものにし、満足度の向上を図ります。ニーズの高いオリジナルグッズも拡充し、かっこ館の知名度向上につなげます。また、水生生物のフィギュアつかみどりやカニのぬいぐるみくじなどを取り扱い、アクティビティの一つとしてお楽しみいただき、来館者の思い出作りの一助とします。

2 サービスの提供内容

- オリジナルグッズについては、就労継続支援B型事業所で製作された商品を取り扱います。

c) 収支計画 (R6年度)

| | |
|--------|---------|
| ●収入見込 | 3,767千円 |
| ●支出見込 | 2,947千円 |
| (内訳) | |
| ○消耗品費 | 188千円 |
| ○材料費 | 2,636千円 |
| ○通信運搬費 | 75千円 |
| ○手数料 | 75千円 |



【就労支援施設によるオリジナル商品】

(オ) 自動販売機設置事業

a) 事業内容

- 自動販売機を3台設置し、飲料を販売する。

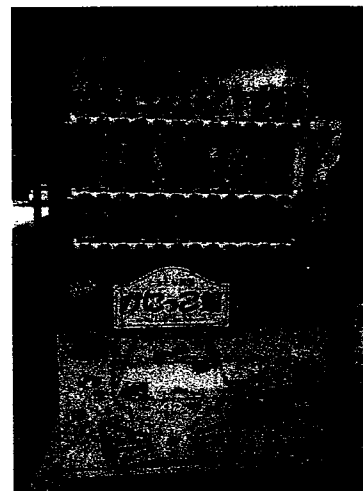
b) 事業実施の目的及び効果

- 館外に自動販売機を設置し、かにっこ館及び芝生広場利用者、海水浴客の利便性とサービス向上を図るとともに収入を確保します。

c) 収支計画 (R6年度)

| | |
|-------|----------|
| ●収入見込 | 300,000円 |
| ●支出見込 | 0円 |

※設置及び管理は業者に委託



【オリジナル自販機】

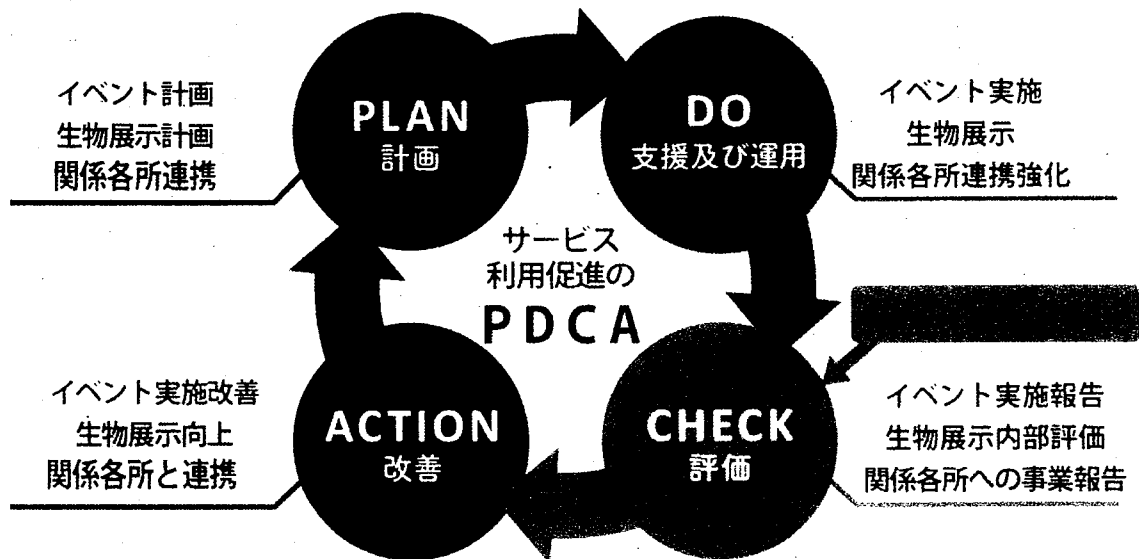
オ サービス向上策と利用促進に向けた取り組み

(ア) 水槽改善のためのクラウドファンディング **新規**

- 現在かっこ館で提供している体験メニューのうち、「生き物タッチング」と「メジナのえさやり」は簡易水槽を利用して実施していますが、より強力で耐久性があり、安定した配管設備を供給できるFRP水槽への更新を目指し、クラウドファンディングを行います。顧客満足度の高い施設運営を行うことでかっこ館のファンを獲得するとともに、更なるサービス向上に還元します。(P.28参照)

(イ) 外部有識者の意見を参考にした施設運営の改善

- 保育・教育・水産関係など幅広い分野の有識者による「かっこ応援団」を設けており、施設運営への意見や助言をいただくことで、よりよいサービスにつなげています。今後はサービス・利用促進に係る総括的な意見に加えて、より一層具体的な、個別の展示・イベント等の具体的な運営の評価についても意見、助言をいただいて一層のよりよいサービスにつなげていきます。



- 外部有識者の評価・点検に併せて、アンケート結果などP.55の5-(5)に記す利用者等の要望の把握や、グーグルビジネスプロフィールの活用と分析など、定性的、定量的評価の両面から利用者の評価を把握し、PDCAサイクルを回しています。

2 サービスの提供内容

(ウ) 関係機関、関係団体等と連携した利用促進の取り組み

a) 「かろいち」「わったいな」との連携、協働・・・継続、拡充します

- 大型イベントである大漁収穫感謝祭を協働で実施します。
- 周遊ビンゴなどを行い相互の利用促進を図ります。
- 駐車場管理や臨時駐車場の手配など連携して行き、利用しやすい環境を作ります。
- 駐車場付近などの除草を共同で行い環境美化に努めます。



【合同除草作業】



【繁忙期の駐車場】

- 消防訓練を合同で行い安心して利用いただけるよう努めます。
- 定期的な情報交換会などを行い、各施設のイベント年間計画、随時計画を適宜共有し、共同開催や支援の調整、助言、また相互広報等によって賑わい創出に一体的に取り組めます。

2 サービスの提供内容

b) a) 以外の周辺事業者との連携

- ツインポートによる賑わいの拠点をPRすることを目的に、(株)鳥取空港ビルとコラボレーションしてウォーキング大会等を開催します。
- (株)鳥取空港ビルが実施しているレンタサイクルを活用して、マリンピア賀露をはじめ賀露地域への誘客を図ります。かにっこ館のホームページなどで鳥取空港のレンタサイクルの紹介をする一方、鳥取空港のレンタサイクルコーナーに賀露地域の案内を設置することで周遊を図り、賑わいを創出します。
- 地元の(株)中村商店と共同でInstagram かにっこ絵画コンクールを実施します。



【かにっこ絵画コンクール】

c) 鳥取県漁業協同組合など各漁協との連携

- 鳥取県漁業協同組合、田後漁業協同組合、千代川漁業協同組合から協力を得て水生生物を採取する環境を整えます。(P.14参照)
- 漁協所属の漁師より生物の提供を受けます。
- 地元関係者で共同開催するかにフェスタの実行委員及び幹事として、かにフェスタを盛り上げ地域の活性化に寄与します。

d) 鳥取ブルーカーボンプロジェクトとの連携

- ムラサキウニなどの生物展示で磯焼けの説明を行います。
- 鳥取ブルーカーボンプロジェクトのパネルを展示し、藻場の再生プロジェクトなどの取組を紹介し環境啓発活動を行います。また、とっとり海のごちそう祭の実施に協力します。



【鳥取ブルーカーボンプロジェクト】



【パネル展示(一部)】